

牛久：学校周辺に見る自然

第10号 ひたち野西近隣公園

2015年10月31日発行

＜動物のすみかをしらべよう ～秋のみずべ公園 ⑩南の国からやって来たチョウ＞

9月24、29日、ひたち野うしく小3年生とのみずべ公園。テーマは「動物のすみかをしらべよう」。今回は、この日見られたチョウの中から、もともとこの地域にはすんでいなかったなかまについて。



いかにも「南国のチョウ」という感じのナガサキアゲハのメス。後はねに突起がないので、他の黒いアゲハと区別できる。

まずは、見た目がいかにも「南国のチョウ」という感じのナガサキアゲハ。写真はメスで、オスははねの表が黒一色です。後ろはねに突起がないことから、他の黒いアゲハの仲間と見分けられます。以前の分布は九州から四国南部まででしたが、幼虫が葉を食べる夏ミカンやキンカンなどの栽培が広がったことや温暖化などのために北に広がったといわれています。



北上を続けるツマグロヒョウモンのオス(左:お友だちの通学帽の上に)とメス(右)

続いて、お友だちの通学帽にとまったツマグロヒョウモン。こちらはオスですが、メスもいましたね。こちらももともと南のチョウでしたが、幼虫が葉を食べるパンジーが普及したことで温暖化などのために年々分布が北上しているようです。

さらに今回、前はねだけですが大変興味深いものを見つけました。ゴマダラチョウに似ているけどと思い調べると、アカボシゴマダラでした。日本のものは奄美諸島に分布し、幼虫はクワノハエノキの葉を食べます。ところが最近、関東地方でもこのチョウが見つかるようになり、分布を拡大しているのです。日本のとはやや違い、中国大陸から人がもちこみ放したのが広がったのだそうです。日本のオオムラサキやゴマダラチョウと同じエノキの葉を幼虫が食べることから「要注意外来生物」



に指定されています。私自身は春に常総市で、こちらも要注意外来生物のミシシippアカミミガメの死体の汁を吸っているのを見ましたが、牛久市では初めてです。こんなチョウを見つけたら、教えてください。【理科支援員：宮内】

落ちていたアカボシゴマダラの前はね(左)。右は春に常総市で撮影。